

難治性血液疾患に対する同種造血幹細胞移植

高松 泰 ¹⁾	熊川みどり ¹⁾²⁾	鈴木 恵子 ¹⁾
若松 信一 ¹⁾	石津 昌直 ¹⁾	白濱 重敏 ¹⁾
河野 友美 ¹⁾	白橋 顕彦 ¹⁾	志々目光希子 ¹⁾
丹生 恵子 ²⁾	鈴宮 淳司 ¹⁾	田村 和夫 ¹⁾

¹⁾福岡大学医学部内科学第一（血液糖尿病科）

²⁾福岡大学病院輸血部

要旨：福岡大学病院では簡易無菌室を設置して1999年5月から2003年12月までの間に難治性血液疾患24例に対して同種造血幹細胞移植を実施した。対象疾患は骨髄系腫瘍11例（急性骨髄性白血病9例，慢性骨髄性白血病1例，骨髄異形成症候群1例），リンパ系腫瘍12例（急性リンパ性白血病4例，悪性リンパ腫7例，成人T細胞白血病1例），再生不良性貧血1例で，腫瘍性疾患23例のうち13例は寛解期，10例は非寛解期に移植を行った。患者の年齢は20歳～62歳（中央値37歳），男性11例女性13例であった。ドナーは兄弟姉妹21例，親2例，非血縁臍帯血1例で，22例は患者とドナーの組織適合性抗原（HLA-A，B，DRの表現型）が完全一致，2例は1座不一致であった。骨髄系腫瘍11例中の8例は移植後5カ月～4年7カ月（中央値1年5カ月）を経過して寛解生存している。最高齢の62歳急性骨髄性白血病患者に対して2回目の再発時に移植を行ったが重篤な合併症を来すことなく2年2カ月を経過して寛解生存している。移植後に再発したのは11例中1例のみで，骨髄系腫瘍では同種造血幹細胞移植により長期寛解生存が期待できると考えられる。リンパ系腫瘍の12例中寛解生存しているのは4例（移植後11カ月～4年，中央値2年2カ月）で，6例は移植後に腫瘍が再発した。再生不良性貧血の患者は移植後1年1カ月を経過して寛解生存している。全24例中6例は腫瘍が再発・増悪して死亡，3例は真菌性肺炎，1例は緑膿菌敗血症を発症して死亡した。化学療法では治癒が望めない血液疾患24例に移植を行い13例が寛解生存していること，62歳の高齢患者に対しても安全に移植を実施できたことより，福岡大学病院における同種造血幹細胞移植療法は確立したと評価できる。今後は治療成績をさらに上昇させるべく，リンパ系腫瘍の再発を下げ，真菌感染症の発症を予防する方法を確立することが重要である。

索引用語：同種造血幹細胞移植，骨髄系腫瘍，リンパ系腫瘍，非腫瘍性血液疾患